

2023（令和5）年度 自己評価公表シート

社会福祉法人 晃和会
あゆみこども園
評価者 松野 ミチヨ

1. 園の教育・保育目標

●明るい子 ●思いやりある子 ●勇気ある子 ●真剣に動作する子

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

2020（令和2）年4月より、幼保連携型認定こども園に移行し、教育保育を一体的に展開している。

【乳児】 それぞれの個性に合わせた丁寧な対応を行い、情緒安定を図る。園での健康管理・けが予防に努める。

【幼児】 小学校進学へとつなげるため、『10の姿』の項目を伸ばせるよう、教育保育活動の環境づくりを行う。

【職員】 安全に業務に取り組むことを第一とする。職員数の増加に対応した連携体制の構築。不適切保育等の問題が取り沙汰されている昨今、保育に関する見解を統一する。

【施設】 経年劣化がみられる施設設備の修理・交換、教育保育用品の補充・充実

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取 り 組 み 状 況	自己評価
教育・保育活動	<ul style="list-style-type: none">●2歳児以上から、専門講師による正課教室（英語・水泳・体操・音楽・平仮名、カタカナの読み書き・文章の読み解き）を年間通して実施し、教育の充実を図っている。●子どもが達成したことや気づきに対して、肯定的な声かけを行い、一方で、禁止言葉や否定言葉を多用しないよう心がけている	A
個別配慮を必要とする児童	<ul style="list-style-type: none">●個別の対応が必要となる園児に対しては、通常とは異なる活動にも柔軟に対応し、施設内で穏やかに過ごすことができるよう、配慮している。●保護者や専門機関等と情報を共有し、子どもの育ちを多角的に支援できるよう努めている。	B
健康	<ul style="list-style-type: none">●施設内では適切な温度・湿度を保ちつつ、適宜空気清浄・換気を行い、衛生的な環境を保つよう努めている。●登園前および在園中の体調確認を行い、手洗い・うがいの励行、玩具等の消毒をするなど、感染防止に努めている。	B
非常災害対策	<ul style="list-style-type: none">●避難訓練（毎月）、不審者対応訓練（年2回）、津波の避難訓練を実施している。予告なしの訓練を行う事で、職員の対応力の向上に努めている。●非常設備点検を定期的に行い、作動状況を確認している。入退室にはカードを用い、関係者以外のお出入りが出来ないようセキュリティを強化している。	A
食に関わる体験	<ul style="list-style-type: none">●園庭での野菜栽培や、クッキング、芋掘り体験、給食室の見学等、食にかかわる様々な体験の場を設けている。●食事のマナーや食べる姿勢など、食事の基本的作法を身につけられるよう、指導している。	B

食物アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> ●食物アレルギー児童に配慮した給食・おやつを提供を行い、様々な食体験ができるよう努めている。 ●食物アレルギー児童に関する情報を保育教諭・調理員と保護者が共有し、提供食材・給食配膳時の確認を徹底している。また、半年に一度の見直しを行い、情報共有を行なっている。 	A
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者への連絡や各種案内等は、連絡アプリによる配信を主とし、紙面配布・掲示を併用している。 ●アプリを活用し、園行事の様子をドキュメンテーション形式にして配信したり、園児の活動時の様子をFacebookで配信する等している。 	A
保護者対応	<ul style="list-style-type: none"> ●保育体験・参観の機会を設定することで、園内での様子や友達との関わり方などを実際に確認することができる。 ●園に対する要望や感想を聞く機会を設け、頂戴した内容は確認した上、改善点に関しては速やかな対応を心がけている。 	B
小学校連携	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣の小学校と計画的な交流を行っており、小学校進学への期待を高め、イメージできるように配慮している。保護者にも就学前の対応について面談で伝え、スムーズに連携できるよう努めている。 ●進学予定の園児に関する情報を小学校と共有し、『小1プロブレム』が起きないように配慮を行っている。 	A
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の方々に行事の案内をしたり、近隣の福祉施設と交流するなど、世代間でのふれあいができるよう取り組む。慰問の依頼があった場合は積極的に参加するよう努めている。 ●地域の公共施設等を訪問、社会の仕組みや、公共施設での過ごし方、社会性を学べる機会を作っている。 	B

自己評価は、A・B・C・Dの基準に基づいて評価する。

A：実施できている B：概ね実施できている C：実施できているが、不十分 D：実施できていない

4. 総合的な評価

認定こども園に移行したことにより、『幼児期までに育ってほしい項目』や『育みたい能力・資質』につながる教育・保育目標への取り組みが明確となった。また小学校進学を意識し、子どもの発達を促す活動を指導計画に組み込んでいる。また、保護者からは、認定こども園に対して、運動・芸術・語学分野の習得を期待するニーズが高まっている。当園で行っている各種正課教室を充実させ、年間を通して計画的に取り組むカリキュラムを立てている。

数年前より導入したアプリにより、ICTを活用した教育保育が教職員および保護者に浸透しており、情報発信を適宜適切に行うことで、当園の教育保育に対する思いや取り組みをすべての保護者に開示している。また、保護者からの連絡・申込を一元的に管理できており、職員が教育保育以外に要していた時間を減らすことができている。

職員の待遇改善については、認定こども園移行時から進めている、余裕を持った職員配置および職員の正規雇用が必要であるが、求人を出しても面接の問い合わせすらない状況が続いており、保育業界全体の課題であり、宮崎市保育会でも雇用に向けた様々な取り組みを行っている。

地域連携においては、コロナが感染症上では5類に分類されたとは言え、感染に不安を覚える地域住民の方からの理解を得ることは困難であり、感染対策ができる職員が太鼓の慰問に出向く程度の活動に留まった。子ども誰でも通園制度の試験運用が開始する等、園対応の重要性が増す事は明らかである。今後も社会動向に注視しながらできる限り、積極的な参加や受け入れを続けていきたい。

全職員に対する福利厚生についても改善を図り、年次有給休暇の取得率は100%を達成している。また、今年度は完全週休二日制度を導入し、休みを取りやすくし、職員の処遇改善に努めた。近年、離職率は低く推移しており、職員層も安定しており、バランス良く配置できている。